

平成27年度 清瀬市立清瀬中学校 学校評価計画表

学校教育目標

人間尊重を基本理念に国際的視野にたち平和を愛する社会人の形成をめざして、
 ・正しい判断力と粘りづよい実践力をもった生徒を育てる ・健やかな身体と豊かな情操をもった生徒を育てる ・高い知性とたくましい創造力をもった生徒を育てる。

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 伝統を受け継ぎ、安全で地域・保護者から信頼を寄せられる学校
- 【目指す児童・生徒像】 自らよく学び、よく考え、互いに支え合い認め合える豊かな心と強い意志をもち、国際的視野に立てる生徒
- 【目指す教師像】 生徒のよさや可能性を引き出し、教職員が互いに磨き合い、協力し合える組織をつくり、公務員としての自覚有る行動のとれる教職員

前年度までの学校経営上の成果と課題 学力の向上と命の教育に特に重点を置いて学校運営を行った。本校は平成25年度より2年間の学力向上推進モデル校に指定され、その初年度として具体的な向上への取り組みを行った。その成果を、平成26年秋に数値で把握し、27年2月に発表する予定である。命の教育については、赤ちゃんのチカラプロジェクトや、メンタルヘルスリテラシー、本校独自の取り組み等で十分に行うことができた。また、生徒が自ら考えて行動できる、判断力の育成を図った生活指導を実践している。課題としては、不登校生徒を減らすことや、特別支援学級と通常学級との交流学習を質量ともに向上させること、ホームページの充実によって、学校理解をさらに進めることが挙げられる。

	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	努力目標(評価基準)	成果目標(評価基準)
確かな学力の向上	国語・社会・数学・理科・英語の5教科の、学力を向上させる。	昨年度まで2年間、学力向上研究推進校として研究を進めた成果を出す。	・授業で復習テストを定期的実施する。	4 教職員の取り組み評価で、肯定的回答80%以上	4 学力調査で都平均を5教科で上回る
			・授業規律を確立するための授業運営ルールを1学期に規定し、全教員に徹底させる。	3 教職員の取り組み評価で、肯定的回答60%以上80%未満	3 学力調査で都平均を4教科で上回る
		全教科(通常学級・特別支援学級ともに)で指導方法の工夫改善をより一層推進する。	・教務主任を中心に進め、改善計画を全教科で作成する。	2 教職員の取り組み評価で、肯定的回答40%以上60%未満	2 学力調査で都平均を3教科で上回る
			・授業公開日に取り組み状況を公開する。	1 教職員の取り組み評価で、肯定的回答40%未満	1 学力調査で都平均を2教科で上回る
豊かな人間性の涵養	生命を尊重する精神をもち、いじめや暴力行為がなく思いやりのある生徒を育成する。	命を大切に生徒、いじめをしない、させない生徒を育成する。	・命の教育を全学年で行う。	4 問題行動調査で1年間のいじめ・暴力件数が10件未満	4 生徒の評価で肯定的回答80%以上
			・ふれあいアンケートの毎学期実施。 ・休み時間には学年担当教員が学年フロアに待機し、生徒に寄り添う。	3 問題行動調査で1年間のいじめ・暴力件数が10件～15件	3 生徒の評価で肯定的回答60%以上80%未満
	生徒の自尊感情と自己肯定感を高める教育活動を推進する。	互いに認め合う生徒を育成する。	・全生徒が部活動、資格取得試験、各種コンクール等において、表彰を受けられる指導を行う。	2 問題行動調査で1年間のいじめ・暴力件数が16件～20件	2 生徒の評価で肯定的回答40%以上60%未満
			・学校便りや学年便り等において、生徒の活動を紹介する。	1 問題行動調査で1年間のいじめ・暴力件数が21件以上	1 生徒の評価で肯定的回答40%未満
健やかな体の育成	体力の向上を図る。	補強運動を行う。	・種目によって、体育の授業開始前からランニングを行うか、筋肉トレーニングを行うかする。	4 教職員の取り組み評価で、肯定的回答80%以上	4 生徒の評価で肯定的回答80%以上
			・説明を効率的に行うことによって運動の時間をより多く確保する。	3 教職員の取り組み評価で、肯定的回答60%以上80%未満	3 生徒の評価で肯定的回答60%以上80%未満
	食育を推進する。	・給食の残菜量を減らすため、配膳の工夫によって食べる時間を確保する。また、生徒による完食推進キャンペーンを行う。	・朝食を摂る指導を行う。	2 教職員の取り組み評価で、肯定的回答40%以上60%未満	2 生徒の評価で肯定的回答40%以上60%未満
			・朝食を摂る指導を行う。	1 教職員の取り組み評価で、肯定的回答40%未満	1 生徒の評価で肯定的回答40%未満
本校の特色①	国際理解教育を推進し、国際的視野をもつ生徒を育成する清瀬中学校。	3年間を見通した意図的計画的な国際理解教育を実践し、生徒に日本理解を深めさせるとともに、国際社会への興味・関心を抱かせる。	・1年次に「世界1大きな授業」とユニセフ出前授業を実施する。・2年次に『留学生が先生』プロジェクトを利用した交流授業を実施する。・3年次に、JICAによる発展途上国理解の学習を行う。	4 教職員の取り組み評価で、肯定的回答80%以上	4 生徒の満足度が93%以上
			・個別指導計画を作成し、生徒個々に対する指導の充実を図る。	3 教職員の取り組み評価で、肯定的回答60%以上80%未満	3 生徒の満足度が90～92%
	特別支援教育を充実させ、インクルーシブ教育を推進する清瀬中学校。	・特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制を確立する。 ・通常学級生徒と特別支援学級生徒との交流によって、相互理解及び相互のより良い成長を図る。	・特別支援学級と通常学級との行事交流、部活動交流、給食交流を行う。	2 教職員の取り組み評価で、肯定的回答40%以上60%未満	2 生徒の満足度が87～89%
			・交流学習が未実施	1 教職員の取り組み評価で、肯定的回答40%未満	1 生徒の満足度が86%以下
本校の特色②	キャリア教育を一層推進する清瀬中学校。	3年間を見通し、生徒の発達段階に応じたキャリア教育を実施する。	・3年間で計画的に職場訪問、職場体験、上級学校調べ、進路講演を行う。	4 全学年で交流学習を実施	4 生徒の満足度が80%以上
			・調べ学習、発表活動等を通してリテラシーや言語能力を育てつつ、自ら進んで進路学習に取り組む指導を行う。	3 2つの学年で交流学習を実施	3 生徒の満足度が70～79%
	保護者・地域との広く深い連携による、地域に根ざし地域と共に歩む清瀬中学校。	生徒・教師・保護者・地域社会との交流活動の充実を図る。保護者・地域に積極的に情報を発信し、理解・協力態勢を強め、地域からの信頼をさらに醸成する。	・ホームページの積極的な更新。	2 3分の1以上の学年で、地域の人材を活用	2 生徒の満足度が60～69%
			・学校便りの地域への配布。 ・学校行事や授業公開等の事前案内。	1 地域の人材の活用が未実施	1 生徒の満足度が50～59%
			4 学校便り増刊号発行、HP更新合計48回以上	4 在宅進路未決定者0	
			3 学校便り増刊号発行、HP更新合計36～47回	3 在宅進路未決定者1名	
			2 学校便り増刊号発行、HP更新合計24～35回	2 在宅進路未決定者2名	
			1 学校便り増刊号発行、HP更新合計23回未満	1 在宅進路未決定者3名以上	
			4 公開講座等への地域保護者の参加数1回平均50名以上	4 公開講座等への地域保護者の参加数1回平均50名以上	
			3 公開講座等への地域保護者の参加数1回平均40名以上	3 公開講座等への地域保護者の参加数1回平均40名以上	
			2 公開講座等への地域保護者の参加数1回平均21名以上	2 公開講座等への地域保護者の参加数1回平均21名以上	
			1 公開講座等への地域保護者の参加数1回平均20名以下	1 公開講座等への地域保護者の参加数1回平均20名以下	

平成27年度 清瀬市立清瀬中学校 学校評価 評価表

学校教育目標 人間尊重を基本理念に国際的視野にたち平和を愛する社会人の形成をめざして、・正しい判断力と粘りづよい実践力をもった生徒を育てる ・健やかな身体と豊かな情操をもった生徒を育てる ・高い知性とたくましい創造力をもった生徒を育てる。

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 伝統を受け継ぎ、安全で地域・保護者から信頼を寄せられる学校
- 【目指す児童・生徒像】 自らよく学び、よく考え、互いに支え合い認め合える豊かな心と強い意志をもち、国際的視野に立てる生徒
- 【目指す教師像】 生徒のよさや可能性を引き出し、教職員が互いに磨き合い、協力し合える組織をつくり、公務員としての自覚有る行動のとれる教職員

前年度までの学校経営上の成果と課題 学力の向上と命の教育に特に重点を置いて学校運営を行った。本校は平成25年度より2年間の学力向上推進モデル校に指定され、その初年度として具体的な向上への取り組みを行った。その成果を、平成26年度に数値で把握し、27年2月に発表する予定である。命の教育については、赤ちゃんのチカラプロジェクトや、メンタルヘルスリテラシー、本校独自の取り組み等で十分に行うことができた。また、生徒が自ら考えて行動できる、判断力の育成を図った生活指導を実践している。課題としては、不登校生徒を減らすことや、特別支援学級と通常学級との交流学習を質量ともに向上させること、ホームページの充実によって、学校理解をさらに進めることが挙げられる。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標	
確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 授業で復習テストを定期的実施する。 授業規律を確立するための授業運営ルールを1学期に規定し、全教員に徹底させる。 教務主任を中心に進め、改善計画を全教科で作成する。 授業公開日に取り組み状況を公開する。 	4	3	努力目標としては、十分な取り組みができた。しかしながら、数学の習熟度が十分でない少数クラスでは、教科書を進めることが精一杯で思うように復習テストを実施することができなかった。効率的な授業運営によって復習の時間を確保し、副教材で小単元ごとに復習確認を行っていた。	4	3	東京都学力状況調査では、社会と理科が都平均を上回り、全国学力状況調査では、国語A(知識)と数学A(知識)B(活用)が都平均を上回っている。今後も復習確認テストを継続し、国語の活用力と英語の学力を向上させていく。
豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 命の教育を全学年で行う。 ふれあいアンケートの毎学期実施。 休み時間には学年担当教員が学年フロアに待機し、生徒に寄り添う。 	4	4	全国学力状況調査の結果が出るのは7月頃であり、東京都学力状況調査結果は9月頃である。これらの調査結果をふまえて結果分析をし、授業改善計画を作成するため、完成が12月頃になってしまう。調査結果がもっと早くであることが必要である。	4	4	授業改善計画を全教科で作成して、授業公開日に取り組み状況を公開しているが、公開日が土曜なので時間講師の授業が入らなかつたり、時数の不足する教科を重点的にいれるため、時間割に偏りが出てしまうことが課題となっている。年間を通して時数確保の工夫を行い、課題解決していく。
	<ul style="list-style-type: none"> 全生徒が部活動、資格取得試験、各種コンクール等において、表彰を受けられる指導を行う。 学校便りや学年便り等において、生徒の活動を紹介する。 	4	4	休み時間に学年担当教員が学年フロアに待機し、生徒に寄り添う「廊下職員室」を全校体制で実施している。ハンセン病資料館見学やメンタルヘルスリテラシー、及び介護体験講話は2学期に実施予定である。	4	4	例年第2学年で実施してきたメンタルヘルスリテラシーについては、年度途中に実施主体である社会事業大学から突然の終了通知があり、実施できなかった。次年度以降は、それ以外の取り組みで、豊かな心の育成を行っていく。
健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> 種目によって、体育の授業開始前からランニングを行うか、筋肉トレーニングを行うかする。 説明を効率的に行うことにより運動の時間をより多く確保する。 給食の残菜量を減らすため、配膳の工夫によって食べる時間を確保する。また、生徒による完食推進キャンペーンを行う。 朝食を摂る指導を行う。 	4	4	計画的に体力及び筋力を向上させるトレーニングを行っている。特に課題はない。	4	4	体力テストの結果、本校はほとんどの項目で全国平均を上回ることができた。投擲力と握力がわずかに全国平均を下回っているため、次年度の重点項目として取り組んでいく。
本校の特色①	<ul style="list-style-type: none"> 1年次に「世界1大きな授業」とユニセフ出前授業を実施する。・2年次に『留學生が先生』プロジェクトを利用した交流授業を実施する。・3年次に、JICAによる発展途上国理解の学習を行う。 	4	1	全学年において、計画どおり行っている。昨年度から始めて2年目になるため、生徒も教員も取り組みをよく理解している。	4	1	成果目標として『生徒の満足度』を指標にしたが、生徒による学校評価の質問項目は「学校の国際理解教育を通して、世界に目を向けるようになった」であり、満足度を測る設問になっていない。よって、次年度以降は成果目標と生徒の評価が一致するような表現の設問を設定していきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導計画を作成し、生徒個々に対する指導の充実を図る。 特別支援学級と通常学級との行事交流、部活動交流、給食交流を行う。 	4	3	全て計画どおりに行った。しかしながら、特別支援学級生徒と通常学級生徒との交流が時期的にも、内容的にも限定的なものが多かったため、生徒の評価は十分なものとならなかった。交流の質や機会を向上させる必要がある。	4	3	年度途中の2学期から、インクルーシブ教育推進校内委員会を発足させ、より良い交流のあり方を検討し、次年度に向けた提言を行わせた。これによって、質・量ともに向上した平成28年度インクルーシブ教育計画を立てることができている。
本校の特色②	<ul style="list-style-type: none"> 3年間で計画的に職場訪問、職場体験、上級学校調べ、進路講演を行う。 調べ学習、発表活動等を通してリテラシーや言語能力を育てつつ、自ら進んで進路学習に取り組む指導を行う。 	4	4	進路指導部を中心にして、3年間を見通した進路指導計画を立てている。事前学習、体験学習、事後学習という流れは全学年で確立できている。特に事後学習での学習発表会は、充実したものになっている。	4	4	通常学級、特別支援学級ともに、卒業生の進路が決まった。定時制2次募集の結果発表が3月末であるため、卒業後に進路が決まった生徒も何人かいるので、次年度は卒業前に決まるよう、さらにきめ細かな指導を行っていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの積極的な更新。 学校便りの地域への配布。 学校行事や授業公開等の事前案内。 	3	2	ホームページの更新を毎週行う予定であるが、なかなかできないでいる。担当者が推進できるよう環境を整えていきたい。	3	2	年度途中にホームページ作成ソフトが変更になったため、操作が思うようにできなかった。本校の抱える課題とは別の問題であり、解決するのに相当の時間と労力が必要であった。次年度はこのスキルを滑らかに移行させていきたい。

平成27年度 清瀬市立清瀬中学校 学校関係者評価表

学校教育目標

人間尊重を基本理念に国際的視野にたち平和を愛する社会人の形成をめざして、
・正しい判断力と粘りつよい実践力をもった生徒を育てる ・健やかな身体と豊かな情操をもった生徒を育てる ・高い知性とたくましい創造力をもった生徒を育てる。

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 伝統を受け継ぎ、安全で地域・保護者から信頼を寄せられる学校
- 【目指す児童・生徒像】 自らよく学び、よく考え、互いに支え合い認め合える豊かな心と強い意志をもち、国際的視野に立てる生徒
- 【目指す教師像】 生徒のよさや可能性を引き出し、教職員が互いに磨き合い、協力し合える組織をつくり、公務員としての自覚有る行動のとれる教職員

前年度までの学校経営上の成果と課題

	具体的方策	評価		課題と次年度以降の対策	学校関係者評価
		努力目標	成果目標		
確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で復習テストを定期的実施する。 ・授業規律を確立するための授業運営ルールを1学期に規定し、全教員に徹底させる。 	4	3	東京都学力状況調査では、社会と理科が都平均を上回り、全国学力状況調査では、国語A(知識)と数学A(知識)B(活用)が都平均を上回っている。今後も復習確認テストを継続し、国語の活用力と英語の学力を向上させていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・討論を取り入れた理科の授業は、ひじょうに活発で、よい授業を行っている。 ・清瀬中学校は学力が高いと思っていたが、東京都の平均よりも低い教科があると分かって驚いた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教務主任を中心に進め、改善計画を全教科で作成する。 ・授業公開日に取り組み状況を公開する。 	4	4	授業改善計画を全教科で作成して、授業公開日に取り組み状況を公開しているが、公開日が土曜なので時間講師の授業が入らなかったり、時数の不足する教科を重点的にいれるため、時間割に偏りが出てしまうことが課題となっている。年間を通して時数確保の工夫を行い、課題解決していく。	今年の6年生は教科担任制を取り入れているので、小中の授業連携はできないものかと考えている。
豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・命の教育を全学年で行う。 ・ふれあいアンケートの毎学期実施。 ・休み時間には学年担当教員が学年フロアに待機し、生徒に寄り添う。 	4	4	例年第2学年で実施してきたメンタルヘルスリテラシーについては、年度途中に実施主体である社会事業大学から突然の終了通知があり、実施できなかった。次年度以降は、それ以外の取り組みで、豊かな心の育成を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「命の教育」をテーマに行った生徒会サミットでは、清瀬中学校の生徒会役員の人たちがしっかり発表できていた。大変立派だった。 ・ファミリールールを小中で取り組んでいるが、利用時間をそろえる等の共有はできないか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒が部活動、資格取得試験、各種コンクール等において、表彰を受けられる指導を行う。 ・学校便りや学年便り等において、生徒の活動を紹介する。 	4	4	2学期より校長室前に掲示板を設置して、生徒の活躍を顕彰している。生徒、保護者、来校者とも掲示をよく見ており、生徒の自尊感情及び自己肯定感を高める取り組みとなっている。課題は特にない。	<ul style="list-style-type: none"> ・校長室前に、生徒が活躍して表彰されたものを紹介する掲示板があって、とてもよい。掲示された生徒の励みにもなる。 ・石田波郷俳句大会の入選作品を、やはり校長室前に掲示して、みんなが見られるようになっているのはよい。
健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・種目によって、体育の授業開始前からランニングを行うか、筋肉トレーニングを行うかする。 ・説明を効率的に行うことによって運動の時間をより多く確保する。 	4	4	体力テストの結果、本校はほとんどの項目で全国平均を上回ることができた。投擲力と握力がわずかに全国平均を下回っているため、次年度の重点項目として取り組んでいく。	運動会などを見ても、清瀬中学校の生徒はとてもよく動いている。競技にも手を抜かず、一生懸命取り組んでいる姿は気持ちがいい。体力的なことはよく分からないので、不足しているものがあれば、向上させてほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の残菜量を減らすため、配膳の工夫によって食べる時間を確保する。また、生徒による完食推進キャンペーンを行う。 ・朝食を摂る指導を行う。 	2	4	種々の調査によって、本校生徒の朝食摂取率は約96%となっている。「ほとんど食べない」「食べない」が約4%いる。家庭への啓発活動とともに、生徒自身でも朝食を作ることができるよう指導しているが、具体的な成果を得ることは難しい現状がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食を摂らない理由は何なのか。経済的理由ではないと思う。 ・朝食を摂らないのは、保護者が作っていないからではないのか。もしそうならば、生徒は、自分で作れるようになっていかなければいけない。家庭のことなので、学校の指導にも限界があると思う。
本校の特色①	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次に「世界1大きな授業」とユニセフ出前授業を実施する。・2年次に『留学生が先生』プロジェクトを利用した交流授業を実施する。・3年次に、JICAによる発展途上国理解の学習を行う。 	4	1	成果目標として『生徒の満足度』を指標にしたが、生徒による学校評価の質問項目は「学校の国際理解教育を通して、世界に目を向けるようになった」であり、満足度を測る設問になっていない。よって、次年度以降は成果目標と生徒の評価が一致するような表現の設問を設定していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育が、清瀬中学校の特色ある教育になっているのは、良いことだ。 ・清瀬中学校の教育目標を実現させるための取り組みを行っているのは、とてもいいことだ。
	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導計画を作成し、生徒個々に対する指導の充実を図る。 ・特別支援学級と通常学級との行事交流、部活動交流、給食交流を行う。 	4	3	年度途中の2学期から、インクルーシブ教育推進校内委員会を発足させ、より良い交流のあり方を検討し、次年度に向けた提言を行わせた。これによって、質・量ともに向上した平成28年度インクルーシブ教育計画を立てることができている。	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育の推進はとてもよい。 ・PTA活動では、1組保護者と通常学級保護者との間でまだ十分な連携が取れていないので、改善してきた。
本校の特色②	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間で計画的に職場訪問、職場体験、上級学校調べ、進路講演を行う。 ・調べ学習、発表活動等を通してリテラシーや言語能力を育てつつ、自ら進んで進路学習に取り組む指導を行う。 	4	4	通常学級、特別支援学級ともに、卒業生の進路が決まった。定時制2次募集の結果発表が3月末であるため、卒業後に進路が決まった生徒も何人かいるので、次年度は卒業前に決まるよう、さらにきめ細かな指導を行っていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験を何十カ所で行えているのはよい。1組の生徒もやっているのはよい。 ・生徒の進路については、本人の努力や家庭の希望など、さまざまな要素が絡み合っているので、難しいと思う。毎年卒業式までに全員の進路が決まっていなければ、なおさらである。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの積極的な更新。 ・学校便りの地域への配布。 ・学校行事や授業公開等の事前案内。 	3	2	年度途中にホームページ作成ソフトが変更になったため、操作が思うようにできなかった。本校の抱える課題とは別の問題であり、解決するのに相当の時間と労力が必要であった。次年度はこのスキルを滑らかに移行させていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりを毎月いただいているので、学校の様子がわかってよい。 ・作品展や学校公開などはその都度案内をいただいているが、学校だよりに掲載してほしい。